

第2期 燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の骨子

1. はじめに

1-(1) 第2期総合戦略策定の趣旨・背景

- これまで地方創生として人口減少対策の取り組みを進めてきた現総合戦略が今年度末に終期を迎える
- 現総合戦略により推進してきた個々の事業については、一定の成果を上げているが、全国的な「東京一極集中」や「少子高齢化・人口減少」の動向もあり、当市の人口ビジョンで展望した「社会増減を転出超過から均衡水準に改善」や「出生数600人維持」の達成は難しい状況にある
- 人口の社会減や自然減をはじめ、人口減少により起こりうる社会経済の衰退などの問題に引き続き対応するため、「第2期総合戦略」を策定して地方創生に取り組むものとする
- なお、切れ目なく取組を進めるために、国からは次期戦略の策定を求められている

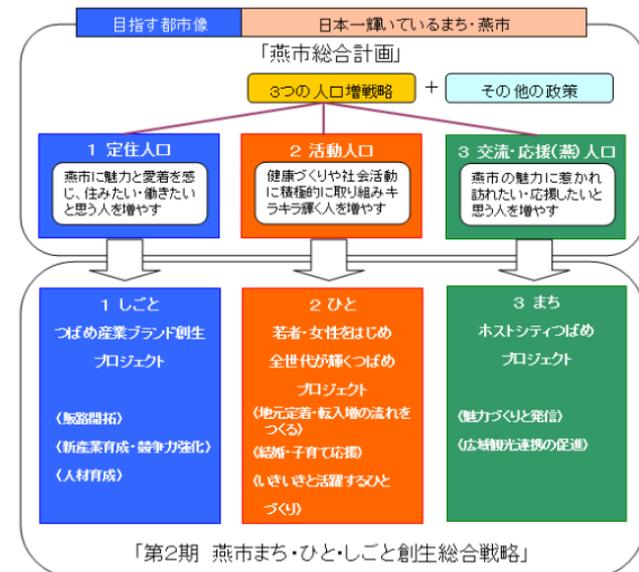
1-(2) 第2期総合戦略の位置づけ

- 3つの人口増戦略を基本的方向性としている第2次総合計画に基づき、人口の維持・減少幅を抑制し、地域活力の向上のために効果的と考えられる取組の方向性や具体策を定める計画
(3つの人口増戦略を具現化する計画)

1-(3) 第2期総合戦略の期間

- 2020年度(令和2年度)～2022年度(令和4年度)【3年間】
- ※通常は5年間のところ、第3次総合計画における「総合計画と総合戦略の一体的化」を見据え、3年間に調整して策定

【総合計画と総合戦略の関係】



2. 国の第2期総合戦略策定に向けての基本的な考え方

2-(1) 全体の枠組

- 「継続を力にする」という姿勢で、現行の枠組みを維持する
(「長期ビジョン」と「総合戦略」の枠組み)

2-(2) 第1期の検証を踏まえた検討の方向性

- ① 4つの基本目標を維持し、「人材を育て活かす」「誰もが活躍できる地域社会をつくる」ことを位置づけ

【4つの基本目標】

- ・ 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする（しごとの創生）
- ・ 地方への新しいひとの流れをつくる（移住）
- ・ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる（若者雇用、女性活躍推進、子育て支援）
- ・ 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する（まちづくり）

- ② 第1期の「しごと」を起点としたアプローチに加え、「まち」「ひと」「しごと」という多様なアプローチを柔軟に実施

2-(3) 第2期における新たな視点

- ① 民間と協働：NPO等の地域づくりを担う組織や企業と連携
- ② 人材を育て活かす：地方創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍を期待
- ③ 新しい時代の流れを力にする：
 - ・ Society5.0の実現に向けた技術の活用を横断分野として位置づけ、推進
※IoT、ロボット、AI等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、多様なニーズにきめ細かく対応したモノやサービスを提供する社会
 - ・ SDGsを原動力とした地方創生をより一層充実
※持続可能な世界を実現させるための国際社会全体における開発目標。すべての人々への公正な質の高い教育の提供など17項目
- ④ 地方へのひと・資金の流れを強化する：
 - ・ 将来的な地方移住にもつながる「関係人口」を創出・拡大
- ⑤ 誰もが活躍できる地域社会をつくる：
 - ・ 女性、高齢者、障害者、外国人等誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現
- ⑥ 地域経営の視点で取り組む：新設からストック活用・マネジメント強化へ転換等

3. 燕市における人口ビジョンと第1期総合戦略の成果・課題の整理

3-(1)人口ビジョン策定後の人口動向

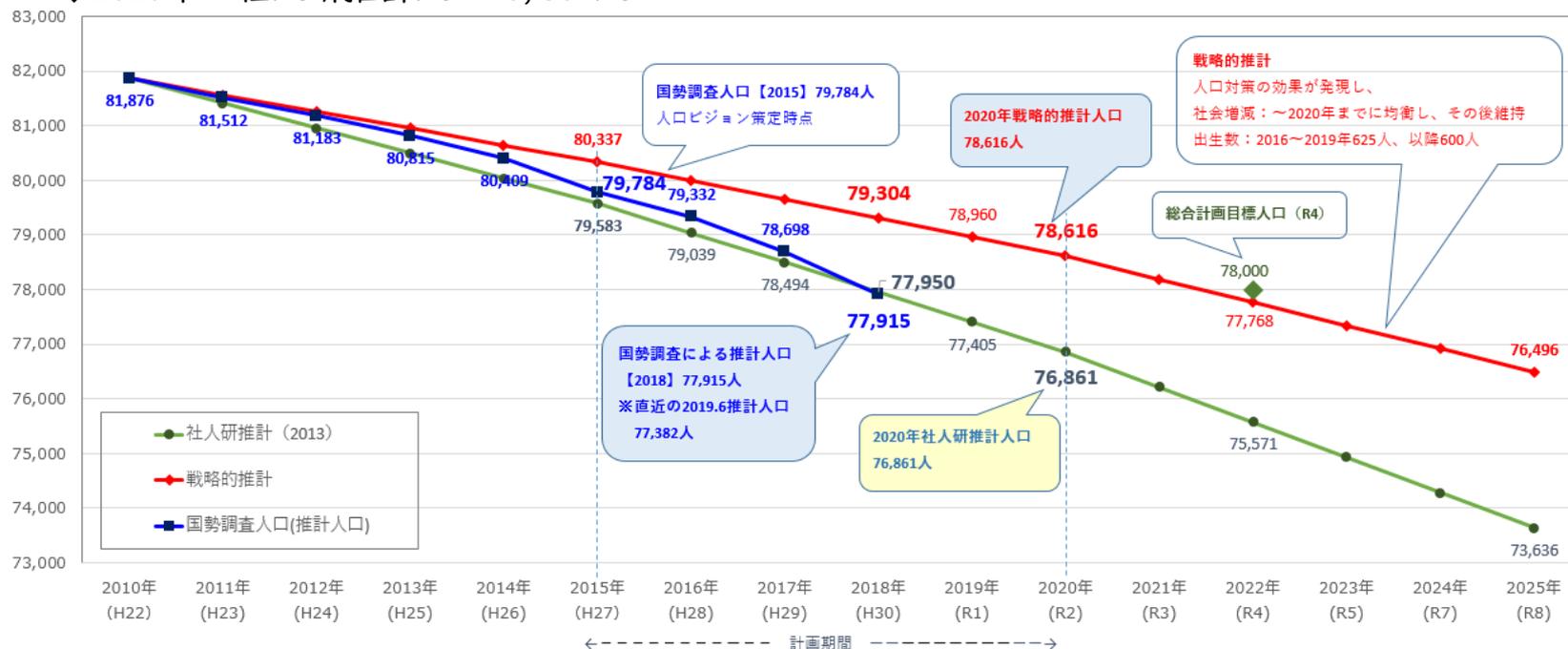
○人口ビジョン策定後から直近までの人口動向

・策定時【2015国勢調査】人口：79,784人⇒2018年推計人口77,915人(2018.10.1)

※直近推計人口77,382人(2019.6.1)

◆2020年の戦略的推計人口78,616人 (2019.6時点で▲1,234人)

◆2020年の社人研推計人口76,861人



3-(2)第1期総合戦略の評価と第2期戦略の方向性

○各プロジェクトの成果指標やKPIの達成状況（達成見込状況）を整理し、事業の成果や課題を分析
 ⇒個々の取組を自然増、社会増をはじめ、人口減少により起こりうる社会経済の衰退などの問題の改善に結び付けるため、継続した取組が必要

（資料2をベースに第2回総合計画審議会の意見を踏まえ整理）

4. 総合戦略

※戦略の体系について：現戦略の体系（しごと・ひと・まち）を基本とする。（「つばめ東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト」は、しごと・ひと・まちの各プロジェクトに引き継ぐものとする。）

4

4-(1)しごと：つばめ産業ブランド創生プロジェクト

①. 販路開拓

ア. 地域産業ブランド化の推進

- 産業分野の多様化に対応し、オリパラレガシーも活用した「ものづくりのまち・燕」の更なるブランド力向上

イ. 広域連携による産業情報発信

- 燕三条地場産業振興センターを中心とした関係機関との連携による本市ものづくりのPRと国内外の販路拡大

②新産業育成・競争力強化

ア. 新産業育成支援

- 高度な技術を持つ金属加工業等の新たな事業分野開拓に向けた産学官金連携支援

イ. ものづくり現場力改善強化

- 品質管理・環境対応、未来技術を活用した生産性の向上やSDGs経営の実現に向けた支援
※未来技術：情報通信技術などSociety5.0の実現に向けた技術

ウ. 産業基盤の強化

- 地域産業の成長に対応した産業用地の確保・整備

③人材育成

ア. 産地基盤技術の伝承

- 産地の保有する技術基盤の維持と次世代への伝承

イ. 創業支援・担い手育成

- 若者や女性の地元定着を図るための創業支援策の充実や人材確保支援

4-(2)ひと：若者・女性をはじめ全世代が輝くつばめプロジェクト

①地元定着・転入増の流れをつくる

ア. U I J ターン・就労支援

- 地域の魅力発信等による若者・中間層のU I J ターンや移住の促進と就労支援

イ.女性が輝くつばめプロジェクト

○女性が働きやすく、男女が共に仕事・子育てを分担できる社会環境づくり

②結婚・子育て応援

ア.男女の出会いサポート

○晩婚化、未婚化の解消に向け、男女の出会いを総合的にサポート

イ.妊娠から育児までの切れ目のない支援

○安心して子育てができる環境の整備

ウ.子育て世帯生活支援

○就園、就学等へ負担感が大きい子育て世帯に対する支援の充実

③いきいきと活躍するひとづくり

○ふるさと教育、外国語教育等の特色ある教育の推進、高齢者等の活躍支援

4-(3)まち：ホストシティつばめプロジェクト

①魅力づくりと発信

ア.産業観光の推進

○ものづくりの技や地域資源を活用した魅力的な着地型観光の推進

イ.インバウンド観光の推進

○海外からの誘客による新たな需要の拡大

ウ.関係人口の創出・活用

○「関係人口」の創出と継続的なつながりによる地域の活性化

※関係人口：地域外にあって、特定の地域への継続的な関心と交流を通じ、様々な形で地域を応援する者

②広域連携観光の促進

ア.広域連携の推進

○定住自立圏構想による弥彦村との連携等による取組の展開

5. PDCAサイクルによる効果検証の実施

6. 資料編：最新の人口の動向等を表やグラフで整理